

～ロタウイルス胃腸炎～

ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児のあいだで流行する感染性胃腸炎のひとつで、ロタウイルスが原因で起こります。ロタウイルスは冬～春先（2月～5月）に流行することが多いです。発展途上国では乳児死亡の主な原因の一つになっています。

ロタウイルス胃腸炎は、5歳までにほとんどの子どもが感染します。初めて感染したときに重症化しやすく注意が必要です。

◎症状

ロタウイルス胃腸炎は、感染してから約1～3日で症状が出てきます。主な症状は嘔吐、下痢です。発熱を伴うことも多いです。咳、鼻水など、上気道炎症状が見られることもあります。



嘔吐で始まり、発熱（半日～2日程度の期間）や腹痛の後、下痢が始まります。下痢は、5～10日間ほど続きます。水のような大量の下痢で、オムツから漏れて水たまりができてしまうこともあります。特に、ロタウイルスに初めて感染した場合に下痢が長引くことが多いです。

激しい嘔吐や下痢により急激に水分・塩分を失うので、特に乳幼児では脱水症状に気をつける必要があります。脱水症状がみられるときには点滴治療や入院治療が必要な場合があります。

ノロウイルスよりも発熱を伴う場合が多く重症度が高いとされています。けいれんや脳炎、腸重積、麻痺性腸閉塞など合併することもあります。

◎治療

ロタウイルスなどのウイルス性の急性胃腸炎には、抗ウイルス剤はなく、特別な治療法はありません。治療は、脱水予防と下痢などに対する対症療法のみで、自然に治っていくのを待つしかありません。

詳しくは、“**なぜ必要？経口補水液とは…の項(HPNo.15)**”や

“ウイルス性胃腸炎の項(HPNo.17)”をご参照下さい。

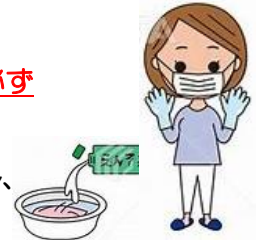


◎二次感染予防

ロタウイルスは感染力の強いウイルスです。ウイルスに感染すれば、大人も発症します。下痢や嘔吐物の中には大量のウイルスが含まれています。下痢や吐物が乾燥するとホコリと一緒に舞ってしまうので、乾く前に処理しましょう。処理の際には マスクをつける方が安心です。手袋もあるといいです。処理後はしっかりと手を洗います。

汚染された床などは、うすめた塩素系消毒剤で広めに消毒します。この時は必ず手袋をつけるようにし換気をよくすることが大切です。

ロタウイルスは、環境にも強く、乾いた場所なら 10 日間ほど生きていますし、インフルエンザとは違い消毒用のアルコールにも強いウイルスです。また、下痢の症状がなくなっても、約 1~2 週間は便中にウイルスの排出が続いているので、オムツ替えのあとの手洗いなどには十分注意しましょう。



◎ワクチンによる予防

感染力が強いため衛生状態に気をつけても予防が難しいのがロタウイルス。何度か感染すると免疫がついて、胃腸炎の症状は軽くなりますが、赤ちゃんが初めて感染すると激しい下痢や嘔吐で脱水になり看病する家族にも大きな負担がかかります。7~10 人に 1 人は脱水や痙攣で入院が必要になります。WHO（世界保健機関）では、ワクチンによるロタウイルス胃腸炎の予防を奨励しており、世界 120 か国以上ですでに認可されています。

ロタウイルス胃腸炎予防ワクチンは、ロタウイルスの病原性を弱めた、飲む生ワクチンです。ワクチンを接種すると、赤ちゃんのお腹の中でロタウイルスに対する免疫がつけられます。

そのため、ロタウイルスに感染しても胃腸炎を発症しない、または、発症しても点滴や入院が必要になるほどの重症化をほとんど抑えることができます。



接種対象は、生後 6 週から 24 週までの赤ちゃんです。この期間に 2 回接種します（ただし 1 回目は生後 14 週 6 日までに済ませるように）。

任意接種で金額が高いワクチンなので、経済的な負担は大きいですが、かかってしまうとお子さんもお父さんお母さんも大変つらい思いをします。是非受けていただきたいワクチンです。生後 2 ヶ月でのワクチンデビューをこころがけ、出産後早めにご検討ください。（詳しくは、ホームページの“**予防接種のお話**（HPNo.3）”をご参照下さい。